

人のチカラ

WORKING FOR

THE FUTURE!

未来に向かって働く場所

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標



ARKTo+
あるくとぶらす

OPEN 10:00~19:00
CLOSE 年始のみ

あるくとぶらす・ぽこ

OPEN 10:00~18:00
CLOSE 日曜、年末年始

INFORMATION
〒834-0031
福岡県八女市本町311
TEL 0943-23-5566 (代)
FAX 0943-23-5098
info@arkto.net
kutsunotsuru@yahoo.co.jp
arkto@rythm.ocn.ne.jp

茶話取舗 デイサービス 大善寺

OPEN 9:00~17:00 時間外(6:30~9:30)
CLOSE なし(年中無休)

INFORMATION
〒830-0079
福岡県久留米市大善寺大橋 1-10-12
TEL 0942-27-6305
FAX 0942-27-6405
daizenji@trad.ocn.ne.jp

<http://arkto.net>



ARKTo WORLD

もっと歩けば もっと変わる

足から世界を変えていく
—WALK SMARTプロジェクト—
ウォーク スマート

ARKTo+

「歩く」

150 年先の未来社会を キュレーションする。 から始まった ARKTo+ ヒストリー



1947 年 創業

ARKTo+
あるくとぶらす



2015 年 第二創業

CONTENTS



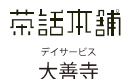
美歩行と美足を追求する未来型靴店。
UGOKU (動く)・YASUMU (休む)・ASOBU (遊ぶ)。
3つのスタイルの足元をイノベーションしていく。



移動型靴店。
オーダーインソール等、出張にて製作・販売を行う。



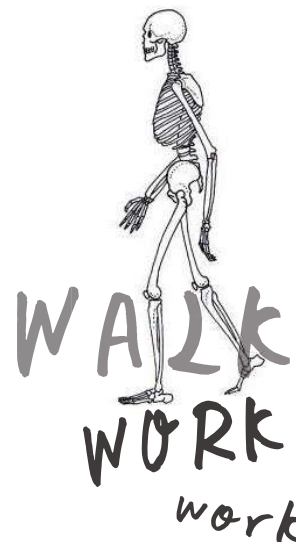
運動療育と個別学習の児童デイサービスあるくとぶらすポコ。
運動と学習両面で子供達を療育し自立のサポートをする。



地域密着型サービス。
歩行改善と認知症予防に特化した取り組みを行う。

ARKTo+
あるくとぶらす

ARKTo+
あるくとぶらす



「生涯現役自立歩行」

WALK

make
some
CHANGES

現在の日本は、「歩行に不安のある人」「足に痛みや症病をかかえる人」で溢れかえっています。

高度経済成長期を経て、成熟安定期に入った日本。高度情報化社会に入り、全てのものが進化を遂げてきました。AI、ロボット、IOTは今後、更なるスピードで世界を席巻していくでしょう。

それと同時に様々な社会問題が表面化してきました。その1つがロコモティブシンドローム (Locomotive Syndrome) と呼ばれる「運動器症候群」です。カンタンに言ってしまうと運動器の障害により「要介護になるリスク」が高い状態になることです。運動器の働きが衰えると介護の必要性が高くなり、寝たきりを引き起こす要因にもなる。これは日本だけの問題ではありません。全世界が「歩行退化」。つまり歩かなくて良い時代に向けて疾走を始めているのです。

現在、我が国の糖尿病人口は950万人に。高血圧人口は4千万人に。高脂血症人口は2千万人。認知症人口は500万人。厚生労働省は、2025年には認知症人口は700万人を超えるとの推計値を発表しています。これらは全て「歩くこと」で大幅に改善されるものばかりなのです。ちなみに江戸時代からすると日本人の歩く距離は6分の1に減っているそうです。1日の座っている時間も世界1位。寝たきり期間も堂々の世界1位。

「不健康長寿大国」。この現在の危機的な状況が分かってくるにつれて、使命感が生まれ始めました。この「歩行退化」が及ぼす社会問題に真っ向から取り組み、そして解決する業態を作らねばならない。必要性を強く感じました。

昭和22年に初代が材木業から一転して創業した履物店はその後靴屋に。これを平成27年にリニューアルし、「生涯現役自立歩行」をテーマに全てを刷新しました。「歩行改善」をテーマにした介護施設、そして「足からの療育」をテーマにした児童福祉事業を加え、ARKTo+は第2創業のスタートを切りました。

「人々が、一生涯自分の足で歩き、
自信とプライドをもって生活できる社会作り」

これを使命とし、「歩行」における新しい付加価値を生み出せる企業づくりをしています。



ARKTo+
あるくとぶらす

OPEN 10:00~19:00
CLOSE 年始のみ

これからの時代に何が求められるのか？どんな変化・革新が必要か？

今後必要とされ、150年先もイメージ出来る新たな靴の業態を創ろう。ARKTo+(歩く+プラス)はそんな思いから生まれました。骨子となるのが「歩行」と「足の骨格」の解析と考え方です。身体全体の骨の数は206個です。それに対して足(くるぶしから下)の骨の数は種子骨も含んで56個。全身の骨の数の4分の1が足に集中しているのです。人間は直立二足歩行をして生活するため足の骨が発達・進化していきました。足が靭帯や腱でしっかりと固定され、足裏アーチが形成されているのは人間のみです。「足は人間工学上、最大の傑作であり、そしてまた最高の芸術品である。」と、かのレオナルド・ダ・ヴィンチも言っています。

その足の軸となる踵骨(しょうこつ・カカトの骨)にフォーカス。踵骨をサポートすることをベースにして、3つの「靴のライフスタイル(動く・遊ぶ・休む)」の質を向上します。

ARKTo+のミッションは、日本人の歩行寿命を世界一にすること！それにより生涯自分の足で美しく、カッコ良く歩くことが出来る。足から始まる未来のストーリーはここから始まります。



鶴 篤介
TOKUSUKE TSURU

大正13年生まれ 鶴得介商店創業者
つる履物店 初代店主
林本南から一転し、つる履物店を創業。
激動の時代を生きた後、リアカーを引きながらの下駄の行商を始める。



鶴 正英
MASAHIDE TSURU

(有) 鶴得介商店 代表取締役社長
1942年 福岡県生まれ つる履物店2代目店主
ウォーキング・コンフォート分野が業界でまだ注目されていなかったころからこれに取り組み、業界第一の深い知識と感性で、これまで数えきれないほどの顧客の歩行改善に寄与している。長年、地域のウォーキング団体の総長にも貢献している。



鶴 邦弘
KUNIHICO TSURU

(株) 日本健康寿命延伸協会代表取締役社長
1968年福岡県生まれ。つる履物店3代目店主
自身のケガや腰痛から、靴が身体に与える影響力の大きさを知り、その後の研究を通じて、独自の歩行・インソール理論を確立する。
目指すは「不老大国 日本」の確立。
その野望を胸に、日夜奔走する。



成型時間は約15分、その場で出来上がります。



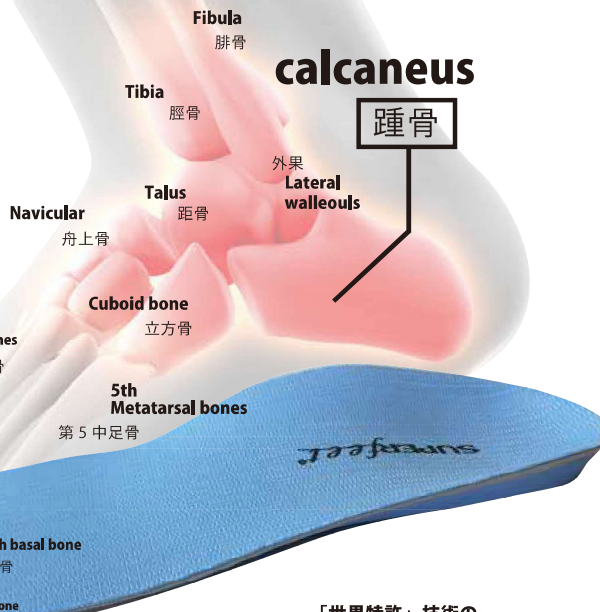
スーパースポーツ
開発者
ジョージ・ヘンリクス

「世界特許」技術の オーダーインソール成型システム

これは世界で唯一アーチを自立させ成型するインソールです。このインソールは宙に浮かせて足に一切の加重をかけない独特の方法で成型します。無加重でのニュートラルポジションを確保し、バキューム方式を用いた成型技術は1976年に世界で初めて開発され、その技術は特許を取得しています。

インソールの力は、 「靴」を変え 「歩行」を進化させる

チカラ



職場へ、工場へ 労働環境は足元から。

営業担当の革靴やパンプス、作業現場の長靴やスニーカー、疲れやすい靴が作業効率を低下させる原因になっていませんか？

インソールで 現場の作業効率化と 生産性がアップ！

靴が疲れにくく歩きやすいと仕事の集中力と持続力も上がります。ARKTo+MOVEは、その場で測定～インソール制作～靴にセットアップが可能です。

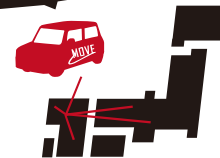


移動型靴店

ARKTo+ MOVE
ムーヴ

「足のお悩み」を、全て解決
どこでも
行きます！

オリジナル
インソールを
作りにどこへでも
駆けつけます。



TEL 0943-23-5566 (代)
☎ 0120-23-5561
✉ kutsunotsuru@yahoo.co.jp
〒834-0031 福岡県八女市本町 311



スポーツクラブ、部活動へ 成果を上げるために！

練習している成果がイマイチ結果につながらない。ひょっとしたらそれは「靴」に原因があるかもしれません。

インソールが身体の 潜在パワーを最大限に 引き出します！

(某一流アスリート
オリンピック選手も使用しています)



お悩みの方、 まずにご相談下さい。

- 膝や腰が痛くて歩けない
- 外反母趾で靴選びが大変！
- お子様の足の不安
- 巻き爪で痛い
- 立ち仕事で疲れやすい
- 若くなりた
- 姿勢が気になる(猫背)
- 合うサイズがない
- ソールのすり減りが早い
- タコ・魚の目で困っている

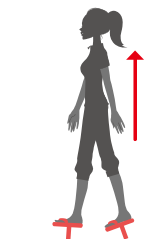
など



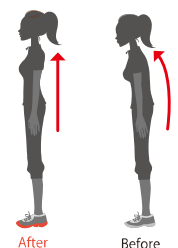
靴を変えると、「立つ」・「歩く」のスタイルイノベーションが起きる!

日本古来の知恵
一本下駄
が

こうなった!

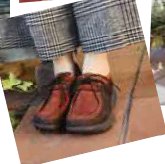
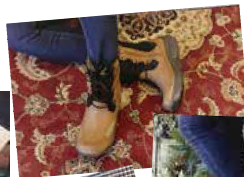


一本下駄は現在も、アスリートの体幹トレーニングで使用されています。



「根気がなくても毎日ウォーキングを続けたい靴があれば・・・!」。当時、糖尿病を患っていた開発者は、医者に歩くことを勧められましたが、どの靴もウォーキングを楽しむに出来るほどのものではありませんでした。それから、これまでと全く違うコンセプトでの靴作りが始まりました。「ウォーキングを続けたい靴。」

一本下駄からヒントを得て、「真っ直ぐに立つ」「足の指先まで全てを使って歩く」という究極の「靴作り」に向けて開発が行われ、ついに完成したのがこの「ストレッチウォーカー」です。靴作りにおいては世界最高レベルと言われるオランダのメーカーとの協業でこの靴は誕生し、2015年度には事実上世界最高の靴に贈られる、オランダの「ゴールデンシュー賞」を受賞。今、最も世界で注目を集める靴。九州では「ARKTO+」のみの限定販売となっています。



3つの生活スタイルが靴とインソールで大きく変わる!

遊 ASOBU とことん楽しむ



動 UGOKU 真剣勝負



休 YASUMU 解放する



フィッティングの流れ



カウンセリング

ご要望に沿った靴を提案するために、お探しの靴の使用目的や用途、足や靴のお悩み、お好みのデザインやライフスタイルなどをお伺いします。



フットプリントの作成・足計測

お客様の足の測定を行い、カルテを作成します。あわせて、体幹や歩き方のクセなどをチェックします。



靴の調整・インソール作成

お客様の足に合わせて、お好みの靴の調整を行います。必要な場合はインソールの作成をして足に靴を合わせていきます。



フィッティング

足の特徴と靴の特徴、お客様のご要望のバランスをとりながら、おすすめの靴をご提案します。



歩き方チェック・微調整

店内を歩いて頂き、再度お客様の健康状態や歩き方に足と靴が合っているか確認します。

鼻緒の組み合わせ
600通り以上。
世界に一足だけの下駄をあなたに。
メンズもあります。(22~27cm)

たくさん歩いても疲れれない。
傷がついても修復できるから一生履ける。
あなたにあわせて立てるので完全にフルオーダー。洋服にも合います。

ゆっくりでいい。

Hello!
World!



あなたの人生を愛そう。
愛する人生を生きよう
～ボブ・ディラン～



入口は靴屋さん

運動療育と個別学習の児童デイサービス

あるくとぷらす

OPEN 9:00～18:00
CLOSE 日曜、年末年始

〒834-0031 福岡県八女市本町 311
TEL 0943-23-5537 FAX 0943-23-5098
✉ arkto@rythm.ocn.ne.jp

毎日が社会科見学

子どもたちは毎日、靴屋さんの中を通り抜けて、あるくとぷら
すに通っています。
靴屋さんで働いてる人みんなに挨拶します。みんな笑顔です。
そしてちょっとだけお行儀よくします。
毎日がソーシャルスキルトレーニング（SST）なのです。
お店とつながってる児童施設はおそらく全国初。
地域の中に自然と溶け込み、様々な方々と触れ合い、愛され
る環境の中にあります。あるくとぷらポコは、地域社会と
共存する児童施設です。



POCO A POCO'S THEME

愛し、愛される
自分づくり。

あるくとぷらポコは、子供たちの将来の自立のため
にあります。専門のスタッフが様々な療育法で子供た
ちに関わり、みんな毎日成長していきます。
でも1番大切なこと。それは「愛」です。
みんなを好きになり、愛する心を大切に。好きに
なれば好かれる。愛すれば愛される。助けは助けら
れる。そんな人として1番大切なことをみんなです
でいきたい。愛し愛される自分を創る。あるくとぷ
らポコはそんな場所なんです。



少しずつ、一歩ずつがちょうどいい。



ドアの先には
ないプレイルーム
やスタジオルーム

「ただいま」
お客さまにも
「こんにちは！」



うわあ！
走れるし
登れるよ！



ただいま。
おかえり。
またね！

運動療育指導員のもと
子供たちは毎日新しい何かを発見しています。



「あるくとぷらす」の始まり・・・

私の弟は知的障がい児でした。2歳年下の弟のそれに気付いたのは私
が幼稚園の時です。自分の弟は普通の子たちと違う。でもそれはやは
り子供の感性。それが何を意味するかも分からず、ただ事実を認識す
るくらいでした。
小学校に弟が入学してきたのは私が3年生になった時。素直な弟が可
愛くて仕方なかった私は毎日小学校に一緒に行っていました。
でも私が5年生になったあたりから弟が大嫌いなようになりました。
そろそろ思春期に差し掛かる年齢でもあり、一般健常児でない弟が恥
ずかしくて仕方なくなってきたのです。中学で2年間は弟が同じ学校
にいない期間を過ごしましたが3年上がる時には弟が新1年生として
入学してきました。
私は猛反対しました。1番カッコつけない
年頃で、弟の存在は私にはとても受け入れ
られなくなっていました。小さい頃あんな
に可愛くて大好きだった弟なのに。私の訴
えを聞いたあの時の母親を今も忘れられま
せん。



「この子はうちの宝よ！この子はうちの先
祖代々の業を洗い流すために生まれてきた
の。だから大事にせんといかん。あなたは
たった1人のお兄ちゃんやろ？だから分かってやって！お願いだから
あの子を嫌いにならんとって！あの子を守ってあげてよ！」母は大泣
きしながら、叫ぶように私に言いました。
あまりの母の想いの強さと言葉の重みに、そしていつも優しい母を大
泣きさせてしまった、という後ろめたさに、私は思わず「分かった
よ。もう分かったから。」と口にしていました。この時を境に、私の
弟に対する気持ちは変わっていったのです。
そして、いつの間にか母からたくさんのお話を学んでいました。今みた
いに放課後等デイサービスや様々な相談機関なんてない時代です。い
つも母は必死でした。大学病院を周り、学校や色々な場所に働き
かけ、弟の知的障がいの改善、居場所を作ろうと足掻いていました。
「この子の事を宜しくお願ひします！人の助けがないと生きていけな
い子です。ご迷惑おかけすると思いますが、何卒宜しくお願いしま
す！！」いつも顔を下げました。私はそんな彼女から、母の強さ、
いえ、人間としての強さだったかかもしれません、その背中から何かが
けがえのない多くのものを学んだのです。

弟と一緒に中学時代も終わり、高校は別々になりました。高1の時に
こんなことがありました。弟が家出をしたのです。家族全員で深夜ま
で捜していたら、何と静岡で補導されたという連絡が警察から入りま
した。1人で新幹線の切符を買い、静岡まで行っていたのです。
なぜ、静岡だったのか今に不明ですが・・・。本当に色んなことが
ありました。
私はそんな家族の中で育ちました。だから家族の絆は強いです。
弟が家族の絆を強くしてくれました。彼は本当に宝でした。母の言う
通りでした。家族の絆こそ本当の宝なんですね。この歳になって改めて
感じます。
「足と靴」の仕事に就きましたが、いつしか、こんな体験をした自分
なら障がいを持ったお子様やそのご両親・ご兄弟のサポートが出来る
かもしれないと思い、足からの身体や脳の療育も含め、放課後等デ
イサービスを立ち上げたのです。

ここには、毎日たくさんの子供達が通ってきてくれます。
みんな天使であり、天才であり、日本の宝です。この子達の自立を支
援する。私の使命の1つです。
日本でおそらく唯一、一般のお店と併設している福祉施設。そこは毎
日が社会科見学です。公共の場に毎日触れる。
子供達は色んなことを感じとってくれてるようです。
今日も子供達の元気な「ただいま！！」の声が響き渡ります。

あるくとぷらす 代表 髙 邦弘